

図書館

【目的】

教育・研究に必要な学術資料を収集・体系化・保存し、これを本学の教職員、学生に提供することを目的とする。この目的を十全に果たすため、各々の学問分野にわたり必要とされる学術資料を過不足なく収集し、それらについて十分な検索手段を確保し、さらに、学術情報をよりスムーズに提供するための人的資源の確保、養成に努める。また、図書館が備えるべき、かつ後世に残し伝えるべき基本的学術資料の収集にも配慮を図る。

1 目的・教育目標

【現状】

本学図書館は、人文社会科学系専門図書館としてかつ本部的機能を持つ中央図書館、人文社会科学系教養図書館として位置づけられた和泉図書館、自然科学系図書館として位置づけられた生田図書館の3館から構成される。各館はそれぞれの位置づけに基づき自立的に学習用資料の選書及び利用者サービスを行なっている。また、研究用図書についてはそれぞれの分野の専門研究者である教員が選書を行っている。

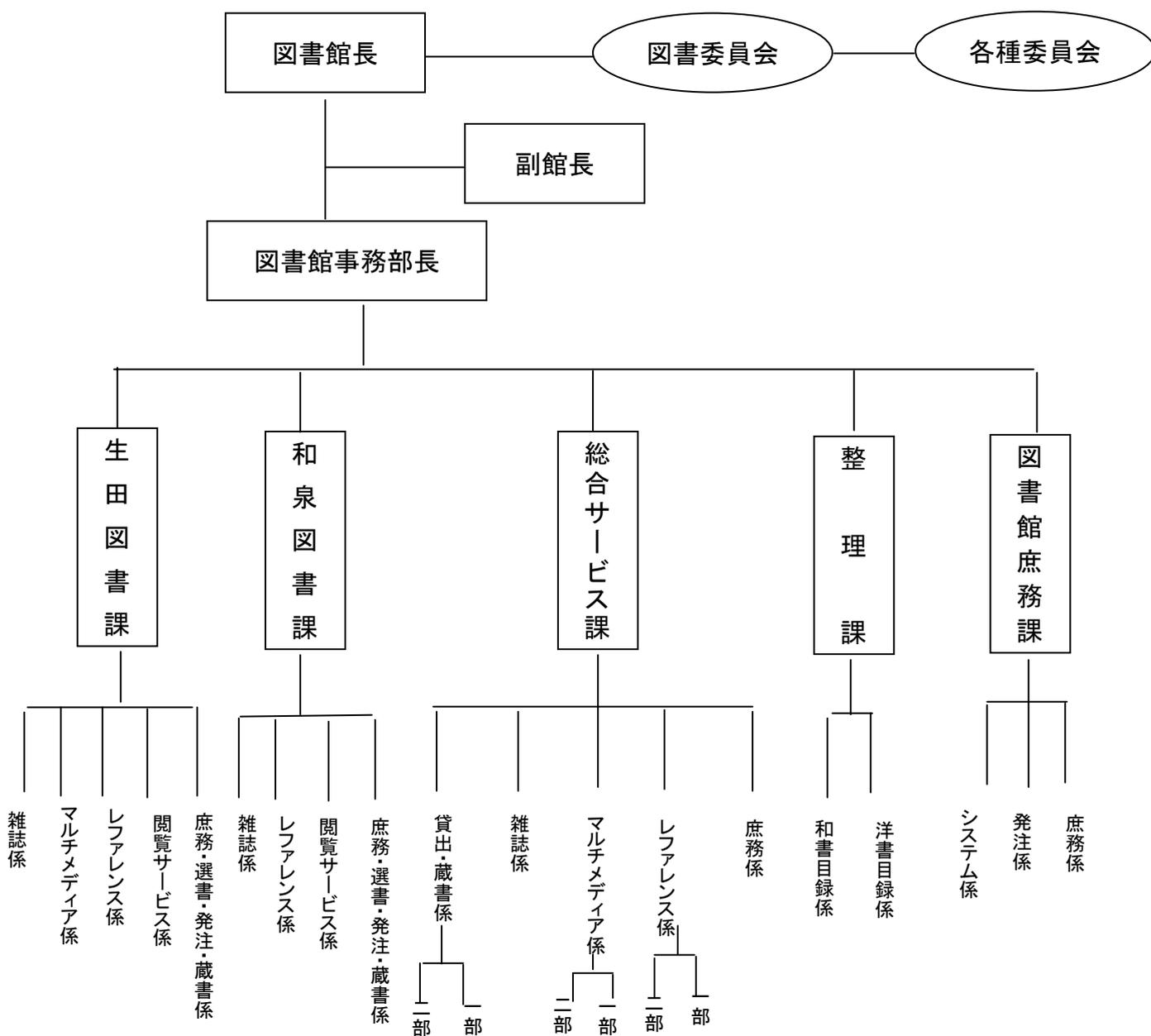
図書館運営の大綱は、学長から委嘱を受けた各学部教員により構成される図書委員会が図書館長からの諮問を受け、諸々の事項を決定している。

近年の情報・ネットワーク技術により、従来の紙媒体資料に加え、電子的形態の資料が急激に増加しつつある。したがってこれら資料の収集、コンピュータ、ネットワークといった情報提供環境の整備・充実が急務である。特にこうした機能を著しく欠き、新しい図書館の使命を果たすべく苦慮している和泉図書館、並びに改善が求められている生田図書館の情報ネットワーク環境についても、高速回線の敷設、アクセスポイント（モバイルコンセントや無線LAN）の増設、ネットワーク接続可能機器の増設（PC等）については今後の大きな課題である。

さらに、施設の充実だけではなく、図書館サービスを担う図書館職員の育成強化も課題となっている。従来から図書館職員に求められる資質に加え、資料形態の変化、図書館サービス概念の変化に対応する人材を育成するために、図書館としての養成体制を整備する必要がある。

特に図書館にとって最も重要な利用者サービスであるレファレンスを担う図書館員については、大学院や海外など様々な研修を通じてその専門性を高めるとともに、専門職として確立することが望まれる。

図書館組織図



【改善方策】

情報提供環境の充実のために、特に新和泉図書館の建設に向けて図書館内に検討WGを設置し具体案の策定作業を進めた。さらにこの案を基に、和泉委員会との連携を図り同委員会と合同で新和泉図書館建設連絡協議会を設置し、計画の具体化を検討し、全学的な理解を得るために「新和泉図書館建設に関する要望」を学長に提出した。その結果、新和泉図書館建設が決定し、4年後には着工の見通しとなった。新和泉図書館建設の骨子は下記のとおりである。

(1) 基本コンセプト

和泉キャンパスの新しいシンボル：

多様な知的コミュニケーションのあり方に対応できる「知の拠点」

- ア 学習図書館機能（教育・学習支援サービス）の充実
- イ 研究図書館機能（研究支援サービス）の充実
- ウ IT環境の充実，デジタル資料の充実
- エ 図書館リテラシー教育の充実

- オ 雑誌エリアの拡充
- カ 国際交流センターとの連携（留学生支援サービス）
- キ 高大連携による高校生への図書館開放
- ク 図書館の社会貢献，地域社会との連携
- ケ 学内関係部署との連携

(2) 規模

延べ総面積 8,545 m²は，閲覧席，開架図書，雑誌，マルチメディアの各エリア増加等により，現在の図書館（4,864 m²）の約 1.76 倍になる。

- ア 閲覧席エリア 1,200 席
- イ 開架図書・雑誌エリア 800,000 冊（現在の蔵書約 335,000 冊，年間約 10,000 冊増加）
- ウ 特別文庫室（10,000 冊収蔵） 同閲覧室
- エ マルチメディアエリア 50 席
- オ 図書館リテラシー演習室 30 人規模
- カ その他の閲覧エリア 目録検索コーナー，新刊雑誌・新聞展示棚，マイクロ資料室，点字閲覧室・対面朗読室，教員閲覧室，コピー室，ギャラリー，ラウンジ等
- キ 業務スペース 事務室，貸出カウンター，レファレンスカウンター，雑誌カウンター等
- ク 共有スペース 玄関ホール，廊下，階段，トイレ，機械室等

なお，新生田図書館建設については，生田教育研究環境整備委員会の下に設置された「生田グランドデザイン WG」で検討されることになった。

図書館職員養成の課題については，2005 年度から自主研修制度を設け，「外国人利用者への図書館利用支援」「布施辰治，山崎今朝弥旧蔵資料調査」「明治大学図書館所蔵版木の整理と版本の調査」「木版挿絵入西洋初期印刷本零葉コレクション解題目録作成」「蘆田文庫所蔵書籍解題目録作成」，2006 年度には「明治大学図書館所蔵外国地域コレクション調査」が加わり，計 6 つの研修プロジェクトを立ち上げた。今後，さらに組織的な研修，育成体制の確立を検討していく。

(図書館および図書・電子媒体等)

- ・ 図書，学術雑誌，視聴覚資料，その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性
- ・ 図書館施設の規模，機器・備品の整備状況とその適切性，有効性
- ・ 学生閲覧室の座席数，開館時間，図書館ネットワークの整備等，図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性，適切性
- ・ 図書館の地域への開放の状況

【現状】

図書館では，資料購入予算約 7 億円を「学術専門図書費」「学習用図書費」「逐次刊行物費」「電子的資料費」に大枠で分け，教員・図書館員による「収書委員会」「新聞・雑誌委員会」「特別資料選定委員会」「教員による学習用図書選書委員会」等，委員会形式の恒常的な選書体制を整え，体系的な資料の収集に努めている。2007 年 3 月 31 日現在の蔵書数は，中央図書館約 111 万冊，和泉図書館 33 万冊，生田図書館 40 万冊，生田保存書庫 36 万冊となっている。

電子的資料については，国内外の 23 の外部データベース，15 の電子ジャーナルデータベースと契約し，多種多様な情報提供を実現している。なお視聴覚資料については，視聴覚センターが別途資料の収集・提供を行っている。

大きな課題として，近年の外国雑誌年平均約 8% の値上りにより，資料購入予算に占める逐次刊行物費の比重の増加がある。この結果，学術専門図書，学習用図書の収集に影響が生じている。また，電子的資料への切替えについては次に掲げる点も大きな課題である。

- ① O P A C との連携
- ② 電子ジャーナル化による冊子体利用者への対応
- ④ 電子ジャーナルへのアクセスの維持・管理
- ⑤ バックナンバー購入の対応
- ⑥ I L L と電子ジャーナル（電子ジャーナルにすると I L L 対応できないものが発生する）
- ⑦ 予算的対策

図書館施設の規模を第 8 章 表 1 に示した。2001 年 3 月に新図書館施設として中央図書館が開館したことにより駿河台校舎における図書館利用環境の抜本的改善が実現した。和泉図書館においては，情報ネットワーク関連設備を現行施設に追加することが困難であり，この点は今後抜本的に改善を図る必

要がある。また、蔵書の増加に伴い書庫の収容能力が限界に達しつつある現状であり、生田保存書庫の有効活用をすすめているが、今後7年程度で図書館全体の書庫は満杯になる見込みである。

第8章 表1 施設

2007. 3. 31 現在

		中央図書館	和泉図書館	生田図書館	生田保存書庫	ローライブラリー	全館	
総延面積 (㎡)		12,485	4,864	4,940	1,346	279	23,914	
用途別面積	サービススペース	閲覧 (㎡)	4,888	2,514	1,955	0	199	9,556
		マルチ (㎡)	545	0	28	0	0	573
		情報端末 (㎡)	— (注1)	— (注1)	40	0	(注3)	40
		その他 (㎡)	760	681	402	0	0	1,843
	管理スペース	書庫 (㎡)	3,506	1,382	1,536	1,104	79	7,607
		事務 (㎡)	1,382	91	207	0	(注3)	1,680
	その他 (㎡)	1,404	196	772	242	0	2,614	
書架収容力	延板延長 (m)	35,662	10,930	17,100	19,920	839	84,451	
	収容可能冊数 (冊) (注2)	990,611	303,611	475,000	554,000	23,305	2,346,527	

(注1) 中央図書館・和泉図書館は、端末スペースを閲覧に含む

(注2) 収容可能冊数の算出: 棚板延長 90 cm で 25 冊の計算 (日本図書館協会)

(注3) ローライブラリーは端末スペース・事務スペースを閲覧に含む

図書館利用者用座席数、開館時間を第8章 表2・3に示した。中央図書館、和泉図書館、生田図書館ともに 22 時までの開館時間を確保し、さらに、中央、生田図書館においては休日開館を実現し、授業時間の前後はもとより、休日も含め図書館を利用した学修の便を図っている。全学部生に対する席数の割合は、中央図書館が 10.2%、和泉図書館が 9.9%、生田図書館が 11.8% で、ほぼ 10% 前後の数値となっているが、なお学生数に対して十分な数を確保するに至っていない。情報ネットワークについては、中央図書館では約 100 台のコンピュータ、650 口の情報コンセントを設置するなど、利用環境は充実したものとなっている。しかしながら和泉図書館、生田図書館ではコンピュータ、情報コンセントとも十分な数を備えるに至っていない。なお、3 館とも書庫の利用者への開放を実現し、図書館の蔵書の殆どについてブラウジングによる利用が可能になっている。

第8章 表2 座席数

2007. 3. 31 現在

		中央図書館	和泉図書館	生田図書館	ローライブラリー	全館
総閲覧座席数 (席)		1,274	1,060	749	45	3,128
座席数	閲覧室	653	856	512	—	2,021
	参考コーナー	137	42	69	—	248
	雑誌コーナー	170	22	80	—	272
	マルチメディア	99	16	11	—	126
	パソコンルーム	—	58	—	—	58
	グループ閲覧室	56	34	73	—	163
	点字閲覧室	5	4	—	—	9
	対面朗読室	—	4	—	—	4
	校友閲覧席	8	0	—	—	8
	地図書室	20	—	—	—	20
	マイクロ閲覧室	6	—	1	—	7
	教員用	6	24	3	—	33
多目的ホール	114	—	—	—	114	

		中央図書館	和泉図書館	生田図書館	ローライブラリー	全館	
開館状況	年間開館総 数日数 (日)	334	273	344	326		
	土曜日開館 日数 (日)	40	39	48	40		
	休日開館日 数 (日)	56	9	66	50		
	土曜開館総 時間数 (時間)	420.0	389.0	441.5	380.0		
	休日開館総 時間数 (時間)	392.0	63.0	462.0	350.0		
	休暇期間中 (学年暦)の 開館日数 (日)	夏季	41	30	43	33	
		冬季	6	4	6	6	
春季		49	41	55	49		
館外貸出 冊数	館外貸出総 冊数 (冊)	181,480	82,979	58,446	5,181	328,086	
	教職員 (冊)	11,549	3,444	2,496	67	17,489	
	学生 (冊)	145,309	74,995	53,023	5,102	273,327	
	学外者 (冊)	24,622	4,540	2,927	12	32,089	
入館者数		826,154	544,113	390,959	15,866	1,777,092	

その他の利用者サービスとして特筆すべきものは下記のとおりである。

(1) レファレンスサービスの充実

レファレンスは図書館にとって最も重要な利用者サービスであり、文献、電子資料に精通した職員を重点的に配置している。従来のカウンターサービスに加えてウェブによるオンラインレファレンスやFAQなども検討している。

(2) 利用者の苦情へのこまめな対応

3館に投書箱を設置して、利用者の意見を聴取し、原則として2週間に一度、掲示により回答している。利用者からの指摘によって改善した事柄も多い。回答は2006年度から図書館ホームページで公開することになっている。なお、Web上からの投書受付についても検討している。また、2004年度に3館で、図書館サービスを充実するための基礎資料作りとして利用実態調査を実施し、その結果を2005年度に図書館ホームページで公開した。

(3) ニーズに応じた閲覧施設

一般の閲覧室、パソコンなどの利用を禁止したブース型の静寂な閲覧室、ゼミや小授業が可能なグループ閲覧室、机の配置などを自由に変えておしゃべりもできる共同閲覧室など、大型の地図を広げたり壁掛けのできる地図室、新書・文庫コーナーに隣接した椅子だけの軽読書席など、利用目的に応じた閲覧施設を設置し、利便性を図っている。

(4) ノートパソコンの貸出

図書館の情報機能を高めるため、中央図書館で30台、和泉図書館で5台、生田図書館で5台の貸し出し用ノートパソコンを用意して館内利用に供している。各館とも利用が多く、この増設が課題である。

(5) シラバス本コーナーの設置

教育支援の一つとして、シラバス登載の参考図書を全て2冊ずつ購入し、1冊は開架書架、1冊はシラバス本コーナーに学部・教員別に配架している。現在それらの所蔵情報をOh-o! Meiji システムと連携することを検討している。

(6) マルチメディアコーナー

3館にインターネットに接続できるパソコンを設置している。「日経テレコン 21」や「DialogSelect」などの主要な外部データベースを無料で提供していることから、常時満席の状態である。

(7) ギャラリーにおける蔵書等の展示

図書館の特色ある蔵書や新収の貴重書を展示するとともに、解題小冊子を作成して、蔵書の理解を深めることに役立っている。例年7月から9月にかけては、司書課程及び司書講習と連携した「図書館の文化史」展も開催している。

(8) 校友やリバティ・アカデミー会員への開放

生涯学習時代への対応として、OBやリバティ・アカデミー会員などの社会人に対し館外貸出しを含めたサービスを行っている。特に休日の利用は、これらの利用者が全入館者数の半数近くになっている。

(9) 附属中高生への開放

中高で進められている「調べ学習」を支援するために、貸出しを含めたサービスを実施している。なお、系列校である中野学園の生徒も利用可能になった。

(10) 英語版ホームページ

留学生や海外からの利用に対応するため、2006年10月から公開した。

また、図書館利用者教育の一環として、副館長をコーディネータとし、図書館職員も講義の一部を担当する学部間共通総合講座「図書館活用法」を2000年度から開講し、多数の受講者を集め、入館者数や資料の館外貸出数の増加など、大きな成果をあげている。さらにゼミナール毎の課題に直結した図書館の活用法を担当教員との打合せに基づき説明する「ゼミツアー」の実施、各種データベースの利用講習会の開催など、多彩な教育活動を図書館利用者に対して行っている。

○ 図書館活用法講義実績

「図書館活用法」(駿河台)・前期

	月日	テーマ	担当者	担当者所属等
1	4月13日	大学図書館への招待	広沢絵里子	商学部教授
2	4月20日	図書館の歴史と図書館	佐伯正	整理課長
3	4月27日	明大図書館の施設・蔵書・サービス ー中央図書館を中心にー	浮塚利夫	総合サービス課長
4	5月11日	図書による情報の探し方	久保木和義	総合サービス課
5	5月18日	書物の愉しみ ー彩飾写本と稀観本との出会いー	森 洋子	理工学部教授
6	5月25日	図書情報の探し方(1)【実習】	梅田順一	図書館庶務課
			西脇亜由子	総合サービス課
7	6月1日	図書情報の探し方(2)【実習】	梅田順一	図書館庶務課
			西脇亜由子	総合サービス課
8	6月8日	新聞・雑誌情報の探し方(1)	平田さくら	総合サービス課
9	6月15日	新聞・雑誌情報の探し方(2)【実習】	平田さくら	総合サービス課
			飯塚貴子	総合サービス課
10	6月22日	インターネット情報の探し方(1)	菊池亮一	和泉システム課長
11	6月29日	インターネット情報の探し方(2)【実習】	菊池亮一	和泉システム課長
			丸山郁太郎	図書館庶務課
12	7月6日	図書館と著作権	飯澤文夫	図書館庶務課長
13	7月13日	レポート・論文の書き方	広沢絵里子	商学部教授

「図書館活用法」(和泉)・前期3時限・4時限

	月日	テーマ	担当者	担当者所属等
1	4月12日	大学図書館への招待	広沢絵里子	商学部教授
2	4月19日	図書館の歴史と図書館	高橋美子	図書館庶務課

3	4月26日	明大図書館の施設・蔵書・サービス －和泉図書館を中心に－	中村正也	和泉図書館
4	5月10日	図書による情報の探し方	梅林千香子	和泉図書館
5	5月17日	書物の愉しみ －和泉図書館所蔵日本近代文学文庫 をめぐって－	畑中基紀	経営学部講師
6	5月24日	図書情報の探し方(1)【実習】	金澤敦子	整理課
			伊藤朋子	整理課
			畑野繭子	和泉図書館
7	5月31日	図書情報の探し方(2)【実習】	金澤敦子	整理課
			伊藤朋子	整理課
			畑野繭子	和泉図書館
8	6月7日	新聞・雑誌情報の探し方(1)	柴尾晋	整理課
9	6月14日	新聞・雑誌情報の探し方(2)【実習】	柴尾晋	整理課
			梅田順一	図書館庶務課
			矢野恵子	総合サービス課
10	6月21日	インターネット情報の探し方(1)	中林雅士	図書館庶務課
11	6月28日	インターネット情報の探し方(2)【実習】	菊池亮一	和泉システム課長
			中林雅士	図書館庶務課
			丸山郁太郎	図書館庶務課
12	7月5日	図書館と著作権	中村正也	和泉図書館
13	7月12日	レポート・論文の書き方	広沢絵里子	商学部教授

「図書館活用法」(和泉)・後期3時限・4時限

	月日	テーマ	担当者	担当者所属等
1	9月20日	大学図書館への招待	広沢絵里子	商学部教授
2	9月27日	図書の歴史と図書館	高橋美子	図書館庶務課
3	10月4日	明大図書館の施設・蔵書・サービス －和泉図書館を中心に－	中村正也	和泉図書館
4	10月11日	図書による情報の探し方	梅林千香子	和泉図書館
5	10月18日(3限)	書物の愉しみ －和泉図書館所蔵日本近代文学文庫 をめぐって－	畑中基紀	経営学部講師
	10月18日(4限)	図書館と私－フアナの図書室－	旦敬介	法学部助教授
6	10月25日	図書情報の探し方(1)【実習】	小林純一	総合サービス課
			吉田千草	図書館庶務課
			土田大輔	生田図書館

7	11月8日	図書情報の探し方(2)【実習】	小林純一	総合サービス課
			吉田千草	図書館庶務課
			土田大輔	生田図書課
8	11月15日	新聞・雑誌情報の探し方(1)	伊藤光郎	総合サービス課
9	11月22日	新聞・雑誌情報の探し方(2)【実習】	伊藤光郎	総合サービス課
			鈴木秀子	総合サービス課
			小野聡	和泉図書課
10	11月29日	インターネット情報の探し方(1)	小野聡	和泉図書課
11	12月6日	インターネット情報の探し方(2)【実習】	小野聡	和泉図書課
			久保木和義	総合サービス課
			平田さくら	総合サービス課
12	12月13日	レポート・論文の書き方	広沢絵里子	商学部教授
13	12月20日	図書館と著作権	中村正也	和泉図書課

「図書館活用法」(生田)・後期

	月日	テーマ	担当者	担当者所属等
1	9月22日	大学図書館への招待	小沢正昭	農学部教授
2	9月29日	図書の歴史と図書館	坂口雅樹	生田図書課
3	10月6日	明大図書館の施設・蔵書・サービス ー生田図書館を中心にー	坂口雅樹	生田図書課
4	10月13日	図書による情報の探し方	土田大輔	生田図書課
5	10月20日	書物の愉しみー彩飾写本と稀覯本との 出会いー	森 洋子	理工学部教授
6	10月27日	新聞・雑誌情報の探し方(1)	豊満朝子	生田図書課
7	11月10日	新聞・雑誌情報の探し方(2)【実習】	豊満朝子	生田図書課
			折戸晶子	生田図書課
8	11月17日	図書情報の探し方(1)【実習】	坂口雅樹	生田図書課
			折戸晶子	生田図書課
9	12月1日	図書情報の探し方(2)【実習】	折戸晶子	生田図書課
10	12月8日	インターネット情報の探し方(1)	菊池亮一	和泉システム課長
11	12月15日	インターネット情報の探し方(2)【実習】	菊池亮一	和泉システム課長
			久保木和義	総合サービス課

12	12月22日	図書館と著作権	飯澤文夫	図書館庶務課長
13	1月12日	レポート・論文の書き方	尾崎宏	農学部助教授

履修者数

	駿河台(前期)	和泉(前期)	和泉(後期)	生田(後期)	計
2000年度	115	210			325
2001年度	150	176			326
2002年度	236	201			437
2003年度	*130	223		198	551
2004年度	177	575		292	1044
2005年度	87	*228	*229	*155	699
2006年度	133	291	252	160	836

ゼミツアー参加者数(2006年度)

	回数	参加者数
中央図書館	81	1006
和泉図書館	130	2416
生田図書館	12	127
計	223	3549

図書館の地域への開放については、すでに2003年3月、「千代田区立図書館と明治大学図書館との相互協力に関する覚書」を締結し、千代田区民に対する本学中央図書館の開放を実現している。この協定により、千代田区住民は図書館利用手続き(年間3,000円)を経て、資料の貸出も含め、中央図書館の利用が可能になっている。また、2004年7月には「杉並区立図書館及び杉並区内大学・短期大学図書館の相互協力に関する協定書」を締結し、いわゆる「杉並区図書館ネットワーク」に参加することにより、杉並区民に対する和泉図書館の開放を実現している。この協定により、杉並区民は図書館利用手続き(年間1,000円)を経て、資料の貸出も含め、和泉図書館の利用が可能になっている。同様に生田図書館では、川崎市多摩区民への生田図書館の開放に関する覚書を2006年3月に川崎市多摩区と交わし、2006年4月から区民への開放を実現した。さらに、中央図書館における「アフリカ文庫講演会」やギャラリーでの展示会、和泉図書館における講演会「著者と語る」など地域への開放を念頭に置いた諸活動を実施している。

また、図書館が長年にわたって蓄積してきた人的資源、知的資源を様々な形で、積極的に開放、活用し、社会に還元していくことを図書館の大きな使命ととらえ、下記のことごとく取り組んでいる。

(1) 司書課程との連携

司書課程には、図書館職員2名が兼任講師として出講している。また、2005年度から開始された夏期集中の司書講習には4名(2006年度)が出講し、それぞれ業務で蓄積した経験を生かして指導に当たっている。また、図書館ギャラリーにおいて授業に関連した図書の展示を定期的に開催している他、グループ閲覧室の実習授業への提供、情報検索授業への外部データベース(教育用バージョン)の提供なども行っている。

(2) 図書館職員の研究成果の公表

2006年度における図書館職員の業績は下記のとおりである。

原 道生(館長・文学部)

- 巻頭言 教育・研究支援機能の維持の危機「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 2007.3
- 「江戸文藝文庫」蔵書解題(六)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.322~340 2007.3
- 「倉橋由美子展」開催にあたって『第14回明治大学中央図書館企画展示 明治大学特別功労賞受賞記念 倉橋由美子展』2006.7
- 「唐十郎展」開催にあたって『第17回明治大学中央図書館企画展示 明治大学特別功労賞受賞記念 唐十郎展』2006.10

広沢 絵里子(副館長・商学部)

- 図書館図書費の現状と将来「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.1~14 2007.3

川上 直人(図書委員・農学部)

- 学術雑誌の電子化とデータベースの今後について「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.14～22 2007.3
- 櫻井 智美(図書委員・文学部)
 - 背表紙のない本『趙文敏公松雪斎全集』「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.265 2007.3
- 久松 健一(図書委員・商学部)
 - 古本探偵『平和の顔』を訳した人「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.271～283 2007.3
- 熊野 正也(事務部長)
 - 『歴史考古学を知る辞典』東京堂書店 416p. 2006.12
- 飯澤 文夫(図書館庶務課長)
 - 地方史研究雑誌目次速報「地方史情報」76/81 岩田書院 p.1-29/1-42 2006.4/2007.2
 - 掘込静香『文献検索』2005 金沢文庫閣 p.369 2006.5
 - 『地方史文献年鑑－郷土史研究雑誌目次総覧』2004 岩田書院 655p. 2006.7
 - 『尾佐竹猛著作集 第24巻 文化・地方史6』解題 ゆまに書房 p.559～595 2006.9
 - 応援歌の作詞者畑耕一「大学史紀要」11 明治大学大学史資料センター p.294～300 2007.3
 - 倉橋由美子明治大学特別功労賞その次第とこれから「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.132～142 2007.3
 - 江戸に遊び、江戸に学ぶ－「書誌学」の授業から「明治大学司書・司書教諭課程年報」7 p.6～9 2007.3
- 丸山 郁太郎(図書館庶務課)
 - 機関リポジトリへの取り組み事始「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.14～22 2007.3
- 柴尾 晋(整理課)
 - 明治大学図書館所蔵板木調査(中間報告)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.204～226 2007.3
- 仲山 加奈子(整理課)
 - 大学図書館のアウトリーチサービス(2)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.233～252 2007.3
 - 図書館員研修のあり方－情報共有による研修効果－「同志社大学図書館学年報」32 p.35～46 2006.7
- 鈴木 秀子(総合サービス課)
 - 図書館自主研修グループ報告『木版挿絵入西洋初期印刷本零葉コレクション』「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.192～203 2007.3
- 杉林 真由美(総合サービス課)
 - 明治大学図書館所蔵板木調査(中間報告)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.204～226 2007.3
- 平田 さくら(総合サービス課)
 - 図書館自主研修グループ報告 蘆田文庫研究会中間報告1「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.170～191 2007.3
- 飯塚 貴子(総合サービス課)
 - 図書館自主研修グループ報告 蘆田文庫研究会中間報告1「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.170～191 2007.3
- 西脇 亜由子(総合サービス課)
 - 大学図書館のアウトリーチサービス(2)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.233～252 2007.3
- 矢野 恵子(総合サービス課)
 - 書誌解説 方言『20世紀方言研究の軌道-文献総目録-』『書誌年鑑』2006 日外アソシエーツ p.499-500 2006.12
 - 大学図書館のアウトリーチサービス(2)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.233～252 2007.3
- 中村 正也(和泉図書課)
 - 布施辰治研究会の活動:2005-2006「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.227～232 2007.3
 - 杉並区図書館ネットワーク設立と活動「大学図書館研究」78 p.114～123 2006.12
- 梅林 千香子(和泉図書課)
 - 明治大学図書館所蔵板木調査(中間報告)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.204～226 2007.3
- 畑野 繭子(和泉図書課)
 - 図書館自主研修グループ報告 蘆田文庫研究会中間報告1「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.170～191 2007.3
- 小倉 葉子(和泉図書課)
 - 明治大学図書館所蔵板木調査(中間報告)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.204～226 2007.3
- 坂口 雅樹(生田図書課)
 - 東経20度ベルト地帯「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.253～264 2007.3

折戸 晶子(生田図書課)

- 明治大学生田図書館における地域開放「日本農学図書館協議会誌」142 P.17～19 2006.7

豊満 朝子(生田図書課)

- 明治大学図書館所蔵板木調査(中間報告)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.204～226 2007.3

土田大輔(生田図書課)

- 大学図書館のアウトリーチサービス(2)「図書の譜:明治大学図書館紀要」11 p.233～252 2007.3

(3) 図書館紀要「図書の譜」

1997年3月の創刊で、2006年度に第11号まで刊行した。図書館の持つ書誌学的世界から思想や学問の根源を問い直す作業を通じて、新たな「知」の創造に資する(後藤総一郎当時元館長の創刊の辞)とい高邁な理想のもとに創刊したものである。毎号、図書館の知的資産である蔵書を中心としたテーマにより、教員と図書館職員が約半数ずつ、合計20本近い論考を掲載し、その役割を果たしている。

【改善方策】

資料購入予算に占める逐次刊行物費の比重の増加に対しては、逐次刊行物の厳密な評価による取捨選択、私立大学図書館コンソーシアムによる電子ジャーナル、データベース契約の推進を行った。また2004年度に続き、アンケート調査に基づく購読中止を含めた購入雑誌の見直しを行った。今後さらに他大学との協力による分担収集等、価格高騰への対処方法を探らなければならない。さらに2008年度新学部・専攻設置に伴い、図書館図書費に経費を予算計上して教育・研究体制に支障のないように配慮した。さらに蔵書構成の適正化を図り、資料の収集、保存方針を見直す方向である。

図書館利用者用座席数の不足については、図書館の面積に限りがあるため大幅な増加は現在のところ困難である。このため、図書館外から図書館資料をある程度利用可能にする電子図書館システムの充実を図り、図書館利用者に対する改善の一助としてきた。図書館は3館平均で年間340日開館しており、これは私立大学図書館としては有数の日数であるが、さらに学習の便宜を図るために、冬季休業中の開館日拡大を実現した。

図書館活用法の履修者数は年々漸増しており、特に2004年度には大幅に増加した。このことにより、例えば実習科目で一人一台のパソコンを使つての授業ができないなど授業環境が悪化した。教育効果が得られないとの判断から、2005年度には、定員制を設け履修者数を抑制した。しかし、授業の目的が学生の図書館への導入教育であることからすれば、少しでも多くの履修者を受け入れることのほうが大切であるため、2006年度には少人数教育を維持しつつ、授業コマ数を増やして対応することにした。また、カリキュラムについても実習授業を重視して図書館リテラシーの効果を高めるよう工夫した。授業のレジュメや資料は図書館ホームページで公開しているが、教育の情報化推進本部と連携してデジタルコンテンツ化し、履修者の予習復習に役立てるとともに、広く公開した。

ゼミツアーの内容は、施設案内、利用方法、利用上のマナーに加え、オプションとして、特定主題資料の配架案内、OPACや外部データベースの検索方法を用意している。今後は、オプション部分を重視し、ゼミ教員との連絡をさらに密にし、ゼミや学生・院生の主題テーマに沿って、さらに専門的な解説(例えば、法律関係データベース、統計関係データベース、電子ジャーナル、などの使用法)を中心にし、教育・研究支援に直接的に結びつくものに改善したい。なお、生田図書館は、中央図書館、和泉図書館に比較して参加者が少ないが、これは理工学部や農学部の場合、図書館の基本的な利用法については研究室単位で先輩が後輩を指導する習慣が定着しているためと思われる。2006年度は、ゼミツアーと別に、理工学部教員の求めにより授業に図書館員が外向して説明を行う機会があった。今後、教員との連携を一層密にして生田地区の特性に沿った、より実効性のあるものに変えていく。また、卒論作成のためのアドバイスメニューも検討している。

(学術情報へのアクセス)

・学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

【現状】

図書館業務については発注から目録データ作成、予算管理まですべてのシステム化が終了し、殆ど全ての蔵書についてのデータ化も終了している。このため図書館利用者は、インターネットを通じてどこからでも蔵書データベースの検索が可能になっている。また国立情報学研究所の学術情報システムに参加することによって他大学とのシステムの連携も大きく進展している。また「図書館ポータルシステム」を構築し、これにより利用者はインターネットを通じて資料の貸出予約、取寄せ依頼、自身の利用

状況の把握などが可能になっている。なお、2005年度「図書館ポータルシステム」の校友への開放も実現した。さらに2005年度には、学生・教職員・校友に対して携帯サイトの利用を開始した。提供するサービスは、図書館からのお知らせ、開館スケジュール、本日の開館状況、月間スケジュール、蔵書検索（OPAC）、ポータルサービス（貸出延長、予約状態確認、配送状態確認）、図書館への問い合わせである。

他大学との協力については、本学、法政大学、明治学院大学、学習院大学、東洋大学、青山学院大学、國學院大学、立教大学の8大学で「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」を形成し、相互の教職員学生が各大学の図書館を利用できる体制を構築した。本学図書館はコンソーシアム8大学のうち最も他大学から利用される図書館となっている。さらに2004年度からは、杉並区図書館ネットワークを形成することにより、本学和泉図書館、女子美術大学、高千穂大学、東京立正短期大学、立教女学院短期大学との相互利用を、また国立情報学研究所情報資料センターとの大学院生レベルの相互利用を実現している。

大学別コンソーシアム利用状況（2006年度）

	青山	学習院	國學院	東洋	法政	明治	明治学院	立教	合計(出掛 人数)
青山	—	171	371	—	146	487	236	146	1,557
学習院	139	—	130	—	106	450	72	297	1,194
國學院	904	52	—	—	65	719	26	241	2,007
東洋	186	90	83	—	215	611	118	64	1,367
法政	424	128	103	—	—	1,037	304	221	2,217
明治	623	141	129	—	725	—	126	77	1,821
明治学院	150	58	60	—	94	203	—	209	774
立教	324	398	78	—	129	357	152	—	1,438
合計(受入 人数)	2,750	1,038	954		1,480	3,864	1,034	1,255	12,375

【改善方策】

図書館システムの改善事項としては、電子図書館システムの充実・整備を進めている。図書館が所蔵する一次資料の電子化・学外各種データベース・電子ジャーナル等を一元的に、情報ネットワークを通じて利用者に提供する電子システムの構築を進めつつあり、図書館ポータルシステムの改善、携帯電話版OPACの公開などにより、利用者サービスの改善を行っていく。

また、海外協力の一環として、2005年12月カナダ・ケベック州政府と協定を結び、相互の永続的な資金供出により明治大学、さらには日本国内におけるカナダ・ケベック研究に資することを目的として「ケベック文庫」を設立した。他大学図書館との協力については、利用者サービス面だけではなく、資料の分担収集等も含め、協力体制を拡大するために、特に山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムのメンバー校との間で検討を進めている。

（社会への貢献）

【現状】

地域への図書館開放の一環として、千代田区民に対する中央図書館の開放、杉並区民に対する和泉図書館の開放、川崎市多摩区民に対する生田図書館の開放を、資料の貸出も含め実現している。また、大学関係者はもとより、市民をも対象として、中央図書館ギャラリーにおける各種展示、アフリカ各国の政府関係者や研究者を招いて行う「アフリカ文庫講演会」、和泉図書館における「講演会『著者と語る』」などを毎年実施している。

地域住民貸出状況

中央図書館（千代田区民）	188 冊
和泉図書館（杉並区民）	632 冊
合計	820 冊

2006 年度に実施した講演会は、下記のとおりである。

第 8 回 図書館講演会「著者と語る」

「対談 倉橋由美子大人の小説の魅力ー豊崎由美が「お子ちゃま」文学を斬る！ー」

古屋 美登里氏（翻訳家）

豊崎 由美氏（ライター）

2006 年 11 月 4 日

和泉図書館第 1 開架閲覧室

第 7 回 アフリカ文庫主催「世界は音でつながっているーアフリカからのメッセージー」

コーディネーター:江波戸 昭氏(明治大学名誉教授)

演奏:パーカッションデュオ 越智ブラザース

2006 年 12 月 11 日

リバティホール

また、海外協力の一環として、2005 年度にカナダ・ケベック州政府と協定を結び、相互の永続的な資金拠出に基づく「ケベック文庫」を図書館に設置した。この文庫は本学はもとより日本国内におけるカナダ・ケベック研究に多大な貢献をなすものと期待される。

【改善方策】

ケベック文庫については、政治経済学部のカベック講座や大学のカナダプロジェクトとの連携を深めるとともに、資料の充実（そのための予算確保）、目録や資料の公開利用、公開講座の開催などを通じた社会貢献でも活用を行っていく。

（事務組織と教学組織との関係）

【現状】

図書館の事務組織は、3 つの図書館の利用者サービスを担う総合サービス課、和泉図書課、生田図書課、目録データベースの構築を担う整理課、図書館全般の企画・管理業務を担う図書館庶務課の 5 課からなる。図書館運営の大綱は、学長から委嘱を受けた各学部教員（図書委員）により構成される図書委員会が図書館長からの諮問を受け、決定される。また、図書委員会のもとに収書構成、利用者サービス等図書館活動に関わる各種課題を検討する小委員会を設け、それぞれの問題に関する検討を行っている。

図書委員会は年 4 回から 6 回程度開催され、図書館運営の検討を行うとともに、図書委員を通じて教学組織との連携協力体制を確立している。

【長所】

図書館長、副館長、図書委員会各種委員会委員長と図書館スタッフ（事務管理職、副参事職）で、年間 2 回のスタッフ研修会を開催し、図書館の抱える課題の討議を行い、問題点を共有している。

（事務職員の研修機会）

【現状】

職員の質の向上を図るため、恒常的に各種の専門的な研修に派遣している。2006 年度実績は次のとおりである。

①文化庁	著作権実務講習会	1 名
②国立情報学研究所	目録システム講習会、等	1 名
③私立大学図書館協会	大学図書館職員長期研修、等	3 名
④専門機関による講習会	Linuxs システム講習、文化財虫菌保存対策研修会、法律図書館基礎講座、等	39 名

上記の外部研修に加え、職員の自発的な研修意欲を高めるために、2005 年度から次の内容による図書館自主研修制度を設け予算措置をとった。

主旨

図書館職員は、書誌学、目録、自館蔵書構成の把握、利用者サービス技術、レファレンス技術、情報処理など多岐にわたる専門知識が必要とされる。これら専門知識を養うための個人・グループが行なう自主研修に対し図書館が支援を行うことで、自己研鑽の活動を促進し、図書館職員の質的向上を図る一助とする。

支援の対象

- 1) 図書館職員を主として構成し明確な研修課題と目標を持つ自主研修グループ，または個人。
- 2) 研修課題は図書館業務に関連するもので，その成果が図書館の改善に資するものであること。

支援の内容

- 1) 資金的支援。
- 2) その分野を専門とする教員の紹介，参加依頼。
- 3) 所属長の裁量による業務時間内の活動。

2006年度には，6グループ計23名の応募があり，採択した。

【改善方策】

自主研修制度の成果についてはまだ検証されていない。この目的を果たすために，予算を確保して今後の継続を図るとともに，発表会の開催，図書館紀要への報告掲載などの機会を設け，研修の成果を応募者のみならず，図書館共有のものとしていくことにしている。

（自己点検・評価）

【現状】

図書館副館長を委員長とし，図書委員3名，事務管理職1名，事務職員4名からなる「図書館自己点検評価委員会」を設置し，恒常的に自己評価を行なう体制を整えている。毎年学長に提出する「教育・研究年度計画書」の内容に関する実施・実現状況の検証を行い，年度末に「自己点検・評価報告書」を作成している。

【長所】

毎年「図書館年次報告書」を編集・刊行し，前年度の諸活動を総括するとともに，図書館活動の自己点検・評価，企画立案のためにこれを活用している。